

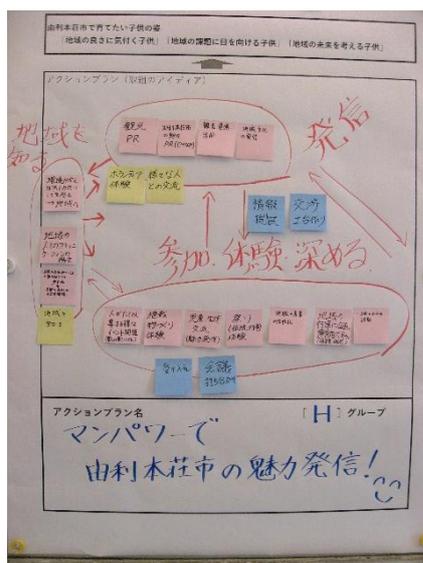
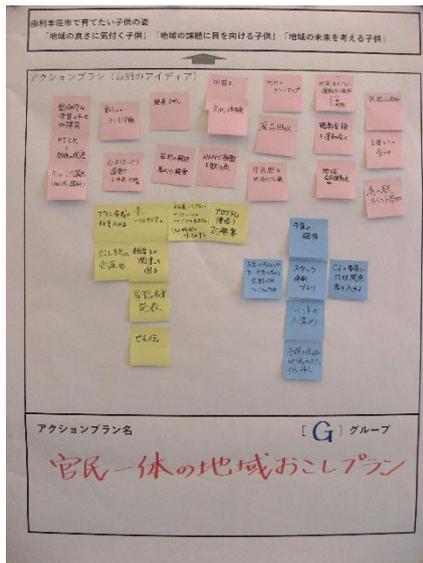


教育ゆりほんじょう

第 19 号
令和 7 年 6 月 11 日
由利本荘市教育委員会
学校 教育 課
教育 支援 センター

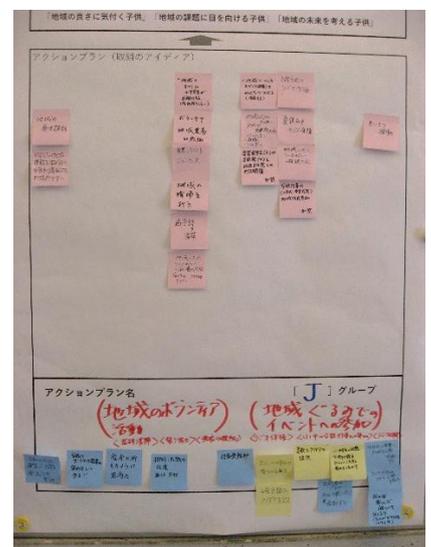
第 1 回由利本荘市コミュニティ・スクール 連絡協議会が開催 (Part 2)

18号に引き続き、アクションプラン熟議シートを紹介いたします。
 <アクションプラン熟議シート グループG~J>



<CSマイスターから>

熟議では、実際にやれそうなアイデアがたくさん出ました。今日は、こんなことができれば面白い、地域が元気になるんじゃないか、というアイデアを誰もが出せるとい熟議の体験をしてもらいました。各地域、各学校に戻ってから、学校運営協議会委員で熟議をしたり、子供たちや地域の人、先生方など拡大したメンバーで熟議をしたり、是非実現してほしいと思います。
 みんなで、由利本荘市を元気にしていきましょう。



まとめ

地域と学校が連携・協働した教育を実践すると・・・

- ① 子どもの学びが広がる
 …教室の学びから社会の学びへ
- ② 地域の課題を見る目が広がる(子どもも大人も)
 …将来を見据えて今やるべきことをみんなで考える
- ③ 地域のコミュニティが広がり、安全・安心な生活を送ることができる(子どもも大人も)
- ④ 地域の企業・人・組織がつながる
 …学校という場を核とした「まちづくり」



第1回学校・家庭・地域連携協議会が開催

5月30日（金）県生涯学習センターで、国立教育政策研究所生涯学習政策研究部 統括研究官 志々田まなみ先生をお招きし、シンポジウム「地域学校協働活動の展開から考える子どもたちの未来」が開催されました。前日の29日には、協働活動の現場訪問とのことで、志々田先生はじめ県生涯学習課の職員の方々が、鳥海小学校の民俗芸能学習（本海流鳥海獅子舞～子どもバージョン～）を見学するために、民俗伝承館まい一れを訪れました。志々田先生からご助言をいただきましたので、ご紹介いたします。



＜志々田先生のご助言＞

地域資源（指導者、地域施設等）を上手に生かして教育課程に組み込んでいること、生涯学習・社会教育と学校教育をつなぐ人材が配置されていて機能していること、そして何よりも子どもたちが協働活動を楽しみ、それに関わる地域の方々も生きがいを感じる活動になっていることがすばらしいと思います。持続的な活動を目指すに当たっては、「やらされる活動」ではなく「やりたくなる、楽しい活動」をデザインすることが大切です。民俗芸能の継承をこれからも頑張ってください。

シンポジウムの中で、学校運営協議会と地域学校協働活動について、さらに活性化するために見直すポイントが示されました。本市が目指す学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的推進のために、各学校・各地域でご活用ください。（地域学校協働活動推進員→本市では地域コーディネーター）

あなたの学校運営協議会は・・・		地域学校協働活動推進員が活躍できる環境	
1	校長からの報告が長く、委員が発言したり協議したりする時間が短い。	1	年度初めの学校報等で、推進員の紹介と役割の説明がされる。
2	委員から気軽に発言・懸案できるような関係づくりがされていない。	2	推進員として正式な委嘱の事務手続きが行われている。（委嘱状の発行、任期や待遇の説明、スタッフの名札の作成）
3	管理職だけが参加し、一般の職員が参加する工夫・配慮がない。	3	一つの学校に複数の推進員が配置され、互いに相談しながらチームで活動している。
4	児童・生徒と直接話したり、意見交換したりする機会がない。	4	校長・教頭や公民館・教育委員会の職員等からアドバイスが受けられる。
5	学校に関する客観的データが提示されない。	5	学校内に推進員や地域ボランティアが使える専用の部屋がある。
6	委員構成に偏りや固定化（経歴、立場、年齢、性別、地域など）がみられる。	6	市の推進員のネットワークを深めるための、情報交換や交流の場が定期的にある。
7	地域連携の行事や支援活動が主な話題である。（学校課題を話す時間が少ない。）	7	職員室等に推進員が使える机や椅子がある。
8	委員の人選や交代について協議することがない。	8	推進員が教職員とコミュニケーションをとりやすい時間帯や場所等が分かっている。
9	研修機会がない。	9	学校運営協議会の委員である。
10	開催数は年3回以下である。	10	地域団体・組織でも役割を担っている。
あなたはどこから変えていきたいですか？			